

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

| | | |
|---|--------------------------------|---|
| 事業名 一般国道202号 伊万里バイパス | 事業区分 一般国道 | 事業主体 国土交通省 九州地方整備局 |
| 起終点 起点：佐賀県伊万里市大坪町 終点：佐賀県伊万里市大坪町 | 延長 1.0km | |
| 事業概要 国道202号伊万里バイパスは、伊万里市中心部の交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的とした、延長1.0kmの現道拡幅事業である。 | | |
| H11年度事業化 | S47年度都市計画決定 | H13年度用地着手 |
| H18年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 約29億円 | 事業進捗率 |
| 計画交通量 | 6,900~7,400台/日 | 86% |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 0.8 (残事業) 3.8 | 総費用 (残事業)/事業全体 7.3/36億円 (事業費：3.4/32億円) (維持管理費：4.0/4.0億円) |
| | | 総便益 (残事業)/事業全体 28/28億円 (走行時間短縮便益：25/25億円) (走行経費減少便益：2.0/2.0億円) (交通事故減少便益：0.77/0.77億円) |
| 感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=0.7~0.9（交通量±10%）【残事業】交通量：B/C=3.5~4.2（交通量±10%） 事業費：B/C=0.8~0.8（事業費±10%） 事業費：B/C=3.7~4.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=0.7~0.8（事業期間±20%） 事業期間：B/C=3.6~3.8（事業期間±20%） | | |
| 事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・伊万里バイパス事業区間の混雑度の低下 ・伊万里バイパス事業区間における損失時間の削減 ②交通安全性の向上 ・伊万里バイパス事業区間の死傷事故率の減少 ③沿道環境の改善 ・伊万里バイパス事業区間の騒音レベルの低減 | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 伊万里市大坪町白野地区より、早期完成の要望を受けている。（平成20年8月） | | |
| 県知事の意見： 事業進捗率が約86%となっており、さらなる事業進捗を図っていただくことで、対応方針（原案）については了承します。 佐賀県の産業振興や県民の暮らしを支え、人やモノの交流を支えていくための基盤となる道路の整備率が全国平均に比べ低く、今後も道路整備を進める必要がある。 一般国道202号は、本県西部地域の主要幹線道路であり、当該事業区間に接続する国道498号大坪バイパスが平成23年3月21日に開通し、この交差点に集中する交通の円滑化を図るために必要な整備である。 また、国道498号大坪バイパスと一体となる新たな幹線道路網が形成され、特に伊万里市～九州自動車道・武雄北方IC間の円滑な物流の支援にも資することから必要な事業である。 佐賀県にとって、当該事業は、本県西部地域での交通ネットワークの整備として必要な事業であり、早期整備に努めていただきたい。 | | |
| 事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続 | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 国道202号の交通量は年々増加しており、混雑度も1.17と高い状況となっている。 | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | |

平成22年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約86%であり、そのうち用地進捗率は約90%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと平成25年度の全線供用に向け用地買収及び工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・地盤改良の追加による増加【約2.2億円増】
- ・補償物件等の追加による増加【約1億円増】
- ・橋梁構造からプレキャストボックスカルバートへの変更による減【約0.2億円】

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。